

資料⑥－3

「多摩市読書活動振興計画（原案）」に対するパブリックコメントより

パブリックコメント（1月15日～2月1日）

（件）

電子申請		22
F A X		3
持参		2
郵送		1
回収箱	本館	1
	豊ヶ丘	4
	聖ヶ丘	6
	永山	1
	唐木田	1
合計		41

市民懇談会

開催日（平成28年）	時間	会場	参加者数
1月16日（土）	18時～20時	東寺方	17
1月23日（土）	18時～20時	永山	5
1月24日（日）	14時～16時	本館	11
1月24日（日）	18時～20時	豊ヶ丘	19
1月30日（土）	18時～20時	聖ヶ丘	41
1月31日（日）	14時～16時	関戸	6
1月31日（日）	18時～20時	唐木田	35
合計			134

パブリックコメント、市民懇談会意見への対応

① 計画原案の記述の表現や記載内容に関するご意見への対応	107件
② 計画策定プロセスや手順に関するご意見への対応	62件
③ 「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」に関するご意見への対応	45件
④ 本館の再構築に関するご意見への対応	19件
⑤ 地域館の存続を求めらるご意見への対応	210件
⑥ 現状の図書館の機能やサービスほかのご意見への対応	57件

地域館の存続を求めのご意見より
私は障がい者で遠くには行けない。近いところに図書館があるのが大事。
コンパクトシティの根幹は交通アクセスの整備で、それなしに図書館を駅に集約すると、みんな漂流する。
図書館というと子どもの視点が非常に強かったが、高齢者の居場所みたいな面もむしろ強くなってきている。あまり社交性のない高齢者にとっての居場所は多分図書館ではないか。
子どもにとってどんな絵本を読んであげればいいのか、図書館の機能として大きい。乳幼児を持っているお母さんは、なかなか大きな図書館には行けない。
諏訪地区市民ホールの図書コーナーは魅力を感じない。蔵書の魅力が居場所にとって重要。
本館があって地域図書館が「補完」するのではなく、中央図書館が身近な分館を支援する。
高齢者の心身、健康を守るために地域館はぜひ存続してほしい。
人件費がかかるというのであれば、図書館介護予防ボランティアのような事で、専門的なことはできないが、色々できると思う。
高齢者から本を遠ざけないで。歩いていけるところにあるから、運動と楽しみを兼ねて利用できる。
地域館存続を前提としたアイデア。休館日が週1日から2日になったとしても良い。新しい本がすぐに入る必要もあまり感じない。すでに多くある良書がきちんとあることが重要。
市民は全館均一サービス維持を頑なに求めている訳ではない。地域館の存続を前提にメリハリの効いた検討をすべき
近年、豊ヶ丘や関戸において購入図書が減っているように感じる。そうすると永山へ行く頻度が増してくる。そのため拠点館を利用することが増えている。
本館の再構築、サービスほか、などのご意見より
本館を中央図書館にしてほしい。課題解決型の行政支援をしてほしい。図書館が自分にとって役立つことを気づいていない方も多い。
パルテノン多摩は博物館機能や歴史ミュージアムがあり、そのようなところとの連携はすごく良いことだと思う。
自由に来て集まって調べられる空間や、コンピュータもあると若者が図書館に集まって来やすいのでは
あそこに行けば何でも調べられるよというものをずっと期待していた。分散型だとほんの一握りの蔵書しか見られないが、それを中央に集めれば、色んな角度から資料を見ることができる。
収集方針をちゃんとしてほしい。
急激に高齢化が進むのに高齢者に対する計画がない。
開館時間について、永山図書館で予約図書の受取りのみ夜間延長を検討してほしい。
有資格正規職員の配置を計画的にし、必要人員は内外に公表し獲得していかなければ、今後全館が外部委託化される道が待っているという、極めて良くない方向が出てくるであろう。

※ パブリックコメントより図書館長が選んで要約したもの。